【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和４年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立玉島小学校

1　前年度 評価結果の概要	**・教科の特性に応じて話合いの視点を明確にし、児童自身が目的意識を持って話し合いを進め、自分の考えを深めたり、広げたりできるようにしていきたい。** **・玉島っ子アンケート等を有効活用し、個と集団のバランスに配慮し、集団づくりを行っていきたい。** **・様々な場面で地域との交流が少なくなってしまったが、積極的に地域人材を活用したり、地域素材を発掘したりしながら学習を進め「玉島学」の学びを深めていくとともに、地域に開かれた学校づくりを進めていきたい。**
2　学校教育目標	**“たくましく　まごころいっぱい　しっかり考え　まなびあう”　子どもの育成** **～豊かでたくましい心と体の育成と確かな学力の定着をめざして～**
3　本年度の重点目標	**①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研究を中心に授業改善を進める。** **②集団づくりと特別支援教育の両視点から児童を育てる。** **③地域のよさ（ひと・もの・こと）を活かした豊かな体験活動を行う。**

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・マイプランに基づいた授業実践を共有することで、取組の促進と改善を図る。	A	・県調査の分析結果から、問題点を職員で共通理解・共通実践できた。職員の学校評価アンケートでも4：よくあてはまる3：ややあてはまるが97%を超えた。	A	・県調査の結果を分析したり、授業をお互いに見合ったりして、授業改善を進めていることや日々の授業を大切にしていることが伝わってきた。児童のために職員全体で力を合わせて頑張ってほしい。	学力向上CO 研究主任
	○児童が目的意識をもちながら学び合い、自分の考えを深めたり広げたりする授業を行う。自分の考えを表現する場を授業の中に設定する。	○学校評価の質問事項「グループタイムを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」に肯定的な回答した児童70%以上	・「唐津の学びスタイル」の実践を図り、深い学びへつながる授業改善を行う。チェックシートを活用して学期毎に振り返る機会を設定する。	A	・学校評価の質問事項「グループタイムを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」に肯定的な回答をした児童は78．8%であった。教師の日々の授業改善が児童に良い影響を与えることができた。	A	・先生の方を向いてよく話を聞いている。注意が向くような工夫がされてある。グループで学習したりパソコンを使って学習したりするなど、いろいろな学び方があって感心した。	校内研究
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学級力アンケート「友達を支える力」「安心を生む力」の項目において肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学級力アンケートを年5回実施し、結果を目に見える形で児童へ返す等その活用方法について工夫する。 ・自問ノートや道徳ノートの児童の記述に価値を見出し、コメントを書く。 ・にこにこ集会（人権集会）を年間5回実施する。	B	・学級力アンケートにおいて「友達を支える力」の項目は達成したが、「安心を生む力」の特に尊重の項目が達成できなかった。 ・人権集会や自問タイムを計画的に実施し、児童は継続的に自己を見つめて文章に書くことができた。	A	・学級力アンケートの結果を児童と共に振り返り、意識を高める取組が効果的である。 ・行事や授業、日常生活を関連付けて思いやりの心を育てているところがよい。	道徳教育推進リーダー 特別活動部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・玉島っ子アンケートを2か月に1回実施し、児童の生活の問題点を把握、改善する。把握したことや児童の様子などから、毎月1回程度の生活打ち合わせ会や連絡会等で気になることを共通理解をして話し合うようにする。	A	・玉島っ子アンケートや子どもたちの様子から会議が必要と思われることについては会議を開き、子どもたちを支援することができた。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員は90%を超えた。	A	・日ごろの観察や対話、アンケートなどで児童の困り感をいち早く把握しているところがよい。 ・いじめはどこにでも潜んでいるという気持ちで、児童の安全を確保してほしい。	人権・同和教育 生徒指導部 教育相談
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童（小学6年生）70%以上	・学校行事や授業を通して、夢や目標について自ら考えさせる場面を設ける。 ・体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童（小学6年生）は73%だった。 ・体験活動等でキャリアパスポート等、自己の活動を振り返る活動を取り入れることで、児童が自己の活動を見つめ、今後にいかそうとする意識をもつことができた。	B	・志を高める教育に力を入れてほしい。 ・体験活動に地域の職人や名人を活用することで、将来への夢を持ったり、見通しを持てたりするのではないか。地域人材の発掘に協力したい。	キャリア教育
●健康・体つくり	○「運動習慣の改善や定着化」	○週に3日以上、授業以外で運動や外遊びを行う児童が75%以上	・朝や15分休み、昼休みの外遊びを奨励する。 ・縦割り活動の「レッツプレイ」に取り組み、体を動かす機会を増やす。	B	・コロナ禍でここ数年実施を見送っていた「レッツプレイ」に今年度は取り組むことができた。 ・体育行事に向けて，精力的に練習に取り組む児童の姿が随所に見られた。また，昼休みには毎日元気に運動場を走り回る児童が多い。一方で，休み時間に図書室や教室で過ごす児童の固定化も見られた。	A	・パソコンを使える子供が増えたり、様々な種類の読みやすい本が出てきたりした中で、体を動かすことの大切さを訴えるのは難しいと感じる。 ・持久走記録会や運動会などで子ども達が挑測と運動する様子を見るのを楽しみにしている。	保体部
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○児童生徒の交通事故を0（ゼロ）にする	・事例研修などを適宜取り入れ、危機意識を高めておく。 ・安全教育は、実情に合わせて行い、体験的学びと振り返りを大切にし、自ら命を守ろうとする意識を高める。 ・複数の目で安全点検を行い、未然防止に努める。	A	・計画的に取り組んだことにより，大きな事故などなく過ごすことができた。子どもたちの安全に対する意識は高まっている。ふりかえりをいかした指導が効果的であった。 ・危険個所の迅速な対応、全職員での情報共有で事故の未然防止に対する意識を高めることができた。	A	・学校では計画的に避難訓練や安全教育を進めていることが分かった。 ・春秋会で見守り指導を行っているが、子ども達はよくまとまって帰っている。気になる様子があればすぐに学校に連絡したい。	生徒指導部 教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日に定時退勤日を設定する。 ・平日18:30施錠を目指す。 ・定期的に共有フォルダ―や教材を整理し、様式や資料の共有化を図り、効率的に業務を進める。	B	・退勤時刻を意識して声を掛け合ったり、見通しを持って計画的に業務をこなしたりすることがよくできている。 ・定時退勤日に一斉に退勤できなくても、できる日に早く退勤するなど工夫する姿が見られた。 ・共有フォルダ―や職員室の棚、机上など定期的に整理する時間を週案に挙げるなどして、業務の効率化を図りたい。	B	・感染症拡大防止のために、今までと違った仕事も多かったと思う。 ・働き方を工夫することで、子ども達を支える教職員の健康の保持増進や余暇の時間の有効活用などが進んでほしい。	教頭 事務主事

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・伸びっ子研・ケース会議・支援会議等の開催、情報共有をする。	B	・特別支援に関する専門性が向上したかを尋ねるアンケートでは約80%をこえていたので、講師招聘の研修やケース会議・支援会議での共有を行うことで職員の意識の向上が図られつつあることを感じる。	B	・一人ひとりの違いを大切にし、担任だけでなく、学校全体で支え、伸ばしていこうとすることの大切さが本校の取組から伝わってくる。	特別支援
○開かれた学校づくり	○保護者・地域との連携	○地域人材を活用した生活科・社会科・総合的な学習の時間（玉島学）を年間1回以上全クラスで実施	・玉島学で、全クラスで地域人材を活用する。 ・学校での学びを発信し、地域の関心を取り込んでいく。 ・サークルクラブのより良い活用法を探っていく。	B	・1・2年の生活科での野菜作り、3年の総合的な学習でのみかん学習、6年生の社会科での郷土学習など、感染防止対策を施した上で全クラスで地域人材を活用することができた。 ・3年ぶりのサークル活動には、4年生以上が参加し、地域の指導者の下、囲碁とゲートボールクラブを楽しむことができた。 ・今後、地域ボランティアの発掘や学びの発信などを考えていきたい。	B	・農業体験など地域のよさを感じる取組をどんどんやってほしい。 ・ゲストティーチャーや保護者のボランティア等の活用を増やし始めていいのかもしれない。	教頭・教務
○小小連携、小中連携の推進	○9か年の学びを念頭に置いた、小小連携、小中連携の推進。	○浜玉中学校区での体験活動や授業公開等を実践する。（合同体験1回、授業公開1回以上）	・中学校区で共通目標を設定し、実践を行い、評価・改善していく。	A	・浜玉中校区内の各学校の公開授業や研修に全職員参加し、校区内での連携を進め、9か年で育てたい力について考えを共有することができた。 ・浜玉中校区小6，中1による虹の松原ボランティア清掃活動に参加した。	B	・学校の規模は違うと思うが、それぞれのよさを大切にした連携を進めてほしい。子ども達が大勢の中で埋もれないように、一人ひとりのよさが出るように意識して指導を続けてほしい。	教務

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研究を中心に授業実践を進め、その成果と課題を全職員で共有することで、授業改善を進めることができた。特に話し合いを可視化し、話し合いの視点をより明確にすることで、児童自身が目的意識を持って学び合いを進め、自分の考えを深めたり、広げたりできるようになってきた。次年度は、学習形態の工夫に重点を置き、子ども達の力を高めていきたい。 ・伸びっ子研やケース会議、生活打合せ、支援会議等を機を見て行うことで、児童一人ひとりについて全職員で情報共有しながら支援を行ってきた。また、支援計画、支援内容、支援体制等を定期的に見直すことで、効果的な支援を行うことができた。玉島っ子アンケートでは一人ひとりの声を大切にするために面談を行うことで、困り感にいち早く寄り添ったり、頑張りに賞賛の声をかけたりすることができた。学級力アンケートでは、学級の実態について客観的に課題を把握し、話し合っていく中で、主体的に学級集団を高めていこうとすることができた。次年度も、思いやり・支え合い・感謝のハッピーサイクルをいかして集団作りを大切にしていきたい。 ・活動内容や環境設定を工夫することで、少しずつ、地域人材の活用やゲストティチャーの来校など、地域との交流を従来に近い形に戻し始めることができた。次年度も、従来の活動ができるようになるのを待つだけではなく、新しい地域人材や地域素材の発掘を進め、地域のよさを活かした活動を考えていきたい。